

# コロナ禍の中で、遂に

理事長 大浦 純平



去年1月に国内での感染が確認されて以来、1年8ヶ月が経過しました。第4波が過ぎ、このまま収束に至るのではないかと希望を抱きましたが、残念なことに変異株の出現も相まって第5波にさらされることになってしまいました。

この間、保護者の皆様にご協力いただきながら、何とか通常時間帯の保育を実施していただくことができました。また、普段の保育や行事を工夫しながら園児たちの心に残るものと実施してまいりましたし、検温や消毒、空気清浄のための機器類を多く導入し感染防止に日々努めています。この間、所轄官庁からも機器購入の補助金が予算化され大いに助かりました。さらに、ワクチンの優先接種も実施され励みにもなりました。

ところが、8月4日、遂に法人傘下の“新宮つぼみ保育園”において職員1名が外部感染し、保健所の調査により何人かの職員が濃厚接触者とされ、“新宮町”からの要請で**緊急休園**（医療従事者や一人親世帯は除く）となりました。しかし、保護者の皆様のご協力のお陰で、その後の消毒や連絡調整など対応はスムーズに経過し、クラスターの発生を抑えることができました。この間、職員1名の職場内感染がありました。園児への感染は認められず、8月18日に通常保育に戻ることができました。

現在の状況では如何に注意を払っても、絶対繰り返さないとは断言できません。今回のことを学びとして、職員一人一人が私生活で感染予防をすることは勿論のこと、各園で感染対応マニュアルの見直しと再確認をしているところです。

まだまだ、この状況は続くものと思えます。保護者の皆様もお仕事によっては大変な状況を抱えていらっしゃるかと推察致しますが、とにかくこの状況を乗り越えるしかありません。こんな中でも、私共はお子さんの保育をさせて頂くことにより、保育理念として掲げている「**皆様の子育てに夢と力を**」の実現に努力を惜しまない覚悟です。 一緒に頑張らしましょう。

先日、久々に事務室にて6時前頃のお迎え時の光景を眺め、変わりように驚いたものでした。その静かなこと。確かに大勢の方が立ち替わり来られ、お子さんを連れて園を出られるのですが、送迎は一人ごとにか滞在時間を短く、おしゃべりは誰で「など」とお願いしている結果です。思えば昔はとも賑やかな時間でした。子どもの声はもうろん、保護者の方と職員とや、保護者の方向士、交わす挨拶や一日の報告、共感し合う声は沢山聞こえ、慌ただしく

## 変ってしまった景色

統括次長 大浦まゆみ  
(元 新宮つぼみ保育園園長)

はあ、たけど一日のお仕事を無事終えて気持ちいい家庭に向かう、ほっとする時間であったと思います。今人々はマスクを着け距離を取り



保育園でこんなことがあったよ、と沢山伝えたい、保護者の方に見えない所での子どもたちの姿をお見せしたい、との思いで各園でできることを模索しています。保護者の皆さんも話したいことを沢山お持ちしましょう。どうしてもこの時は「遠慮なく電話やお手紙で」相談ください。また元の日常が戻り沢山おしゃべりでき音楽祭や歌える、その日が来るのを祈るばかりです。



## 新宮つぼみ保育園年報 第11号

2021年(令和3年)9月7日発行

発行/編集

社会福祉法人 輔仁会  
新宮つぼみ保育園

〒811-0124 糟屋郡新宮町新宮東5-1-18  
<http://www.hojinkai.ed.jp/s-tsubomi/>



## コロナ禍の8月

園長 藤井 由理

います。

新宮つぼみ保育園も開園から17年目を迎えました。夏の暑さも年を追って上昇しているように思えます。新宮つぼみ保育園でも暑さへの対処をあれこれと考え、大きなシートを張り日陰を作ったり、ミストや屋外用扇風機を設置したり、直射日光を避けるためのオーニングを設置したりと暑さを緩和する方法を取り入れました。子ども達は暑くても寒くても全力で遊ぶので、環境を整えてあげるのには大人の役目です。子ども達が笑顔で遊んでくれる事がなにより嬉しく思

昨年引き続き今年もコロナが世の中を席巻しています。理事長先生も書いてありますが、8月が始まったばかりの週、とうとう新宮つぼみ保育園の職員2名がコロナウイルスに感染してしまいました。この事で保護者の皆さんには、休園や家庭保育の協力をお願いする事となりました。その間、保護者の方とはメールで連絡のやり取りをしたのですが、皆さんからいただいた返信メールの中には、迷惑を被った

ているにも関わらず、職員を心配し、また労ってくださるコメントが多くありました。皆さんの温かい言葉にどんなに励まされたことか、この時コロナの対応で張りつめていた気持ちがふっとほぐれるのを感じました。

新宮つぼみ保育園はこんな温かい方々から支えられているのだとあらためて感謝しました。そして支えてくださる皆さんのために、可愛い子ども達のために、これからも精進していく事を心に誓いました。



## それぞれの夏の楽しみ方を

2021年度 父母の会 会長 小川 泰明



太陽の時間が少しずつ短くなりましたがまだまだ夏の日々が続きます。皆様いかがお過ごしでしょうか。父母の会としまして7月に第1回役員会を開催しました。今年度は初めての方も多く、また例年通りとはいきませんがまずは自己紹介をし、年間行事について協議しました。今後も保育園と連携し慎重に取り組みたいと考えおります。また皆様へお願いすることもあるかと思っておりますのでご理解ご協力のほどよろしく願いいたします。

またリミック公開保育の中止を受けボランティア清掃も一時延期いたします。実施の際には改めてご案内いたします。皆様ご協力お願いいたします。制限が多い日々が続きますが誰のせいでもありません。こんな時こそ保育園・子ども・保護者と連携し、思いやりのある行動が必要なのではないでしょうか。

今年もイベントの自粛、中止を多々耳にします。しかし特別な事ばかりではなく日々の何気なく過ごす時間も家族の大切な思い出と思っています。ちなみに我が家では「しりとり」をよくします。小学生の兄と遊ぶ時には歳のせいなのか私が同じ言葉を2度言って負けることも増えました。また3歳の娘も横から割って入ってきて「りんご・ごま」の無限ループ！我が子の成長を感じることも出来ますし奇想天外な造語も飛び出し刺激的です。いつでもどこでもできるので最近「しりとり」してないな〜という方にはオススメです。

この期間が子ども達にとっていい思い出となるよう、新しいことに取り組んでみるとか、わが子と一緒に少しでも楽しい思い出をつくりながら、みんなでこの状況を乗り越えましょう！



昨年七月、給食室の床の張り替え工事が行われました。元々の床は子どもたちが外から給食室をのぞいた時に温かみを感じられるようにと、木材が使われていたが、長年の使用により劣化が進んだため張り替えることになりました。どうしても水を使うことが多いため、耐久性やメンテナンスを考えるとビニル素材をすすめられるのですが、昔ながらのビニル床ではなんだか殺風景な給食室になってしまし、木目調の「ビニル床」を提案して頂きました。



養生から始まり、約四日間の大規模工事だったので、給食を調理パンのメニューにしたり、一部紙皿での提供にしたりと子ども達や保護者の方にもご理解と協力をいただき、無事に張り替えることが出来ました。

新しくなった床は全くビニル感はなく、以前の温かみは残したまま、綺麗に生まれ変わった事が出来ました。傷も付きにくい為、日々の掃除の際も洗剤とブラシでゴシゴシと磨くことが出来、清潔を保つことが出来るそうです。これからはずつと、子どもたちが笑顔でのぞいてくれる給食室でありたいと思います。

(栄養士 小椋 由香利)

## 「分散型の行事」

一昨年度の終りからコロナというウイルスと付き合うようになり、昨年度はずいぶん沢山の行事を中止したり開催の仕方を見直したりしました。

親子保育は中止、一日保育士月間も中止と「中止」が続く中、「お泊り保育は？運動会はどうする？」と中止にするしかないのかを考えるようになりました。



一年の中で青組さんが中心になって行われる行事も多く、その年の青組さんだけが経験できなくなってしまうのは避けたいという思いから、人が出来るだけ密にならない状態でなんとか行事を開催する方法を考えることにし、職員間で何度も何度も協議を重ねました。

青組さんのお泊り保育は泊まらない方法を検討した結果、「夜までわくわく保育園」として、子どもたちは従来行っているほとんどの行程を体験することが出来ました。又、運動会は3・4・5歳児に限定して開催し、年齢ごとに開始時間を区切ったり、保護者の方の応援席を指定したり、沢山のご協力を頂きながら無事に終わることが出来ました。ほかの年齢の競技を見てもらうことが出来ず残念でしたが、青組さんの最後の運動会を少しでも盛り上げようと職員総出で海の生き物や海賊になって遊戯に参加しました。保護者の方からは「世間で沢山の行事が中止される中、工夫してなんとか運動会を開催してもらって、子ども達は何も変わらず生き生きとしていて、嬉しかった」という声を沢山頂きました。発表会も「音楽の部」は年齢別に、「劇の部」はクラス別に分け出来るだけ離れて観覧して頂けるよう席を設けました。



行事を開催するにあたって何度も職員同士で話し合いましたが、「みんなで考えてみんなで作った」と職員が団結出来た気がします。時には保護者の方の気持ちになってみて、今まで気付かなかったことに気付かされることもあり、今後も引き続きこの方法で行ってはどうか？と思う事もありました。一つひとつの行事に丁寧に向き合うきっかけとなったことは、コロナウイルスと付き合う中で「マイナス面だけではなかった」と思えました。今後も「いつもと同じように…」と行事を終わらせていくのではなく、一つひとつの行事がより充実したものになるよう検討していきたいと思っています。

(主任保育士 中岡 千晶)



昨年、運動会で使用する入場門を新しくしました。これまでは、千早のつぼみ保育園から借りた入場門を使用していたのですが、自分たちでまずは職員からデザインやアイデアを募ることにしました。また、実際に使用しやすいよう門の大きさや使用しない時期の収納箇所なども並行して考え、二本の虹色の柱を立てることに決定しました。

入場門の周りに付けたレインボウの布は緊急事態宣言中に在宅勤務や作業の時間に縫い合わせ作業しました。

骨組みは理事長先生に材料を用意してもらって職員と一緒に組み立てました。理事長先生をはじめとした男性陣の活躍と細やかな裁縫作業のおかげで入場門は無事に完成することが出来ました。出来上がった入場門は、色鮮やかで運動会当日に設置された入場門を見た子どもたちも「大きいね」「色んな色があつてきれい」と喜んでいました。今後の運動会でも、子どもたちの姿と共に手作りの入場門が存在感を放つてくれる、と思っています。

(副主任保育士 中村 千里)



子ども達とバケツで稲を育てようという計画し、まず子ども達にお米について話をしてみよう、毎日食っているお米がどうやって出来ているか知らない子がほとんどでした。写真を見せるなどしてイメージが湧くようにしましたが、葉っぱからお米が出来るの？と不思議そうにしている子もいました。お米が出来る過程を実際に見て知る事は良い経験になるのではないかと思います。お米が育つと育て始めました。順調に生長し、大きくなっていく稲を見ながらお米が穫れる期待感が高まっていたのを覚えています。また私自身、実家でお米を作っていたので育てる過程は知っていましたが、間近で観察など自分自身も知りませんでした。実際には花を見た時は子ども達と一緒に大喜びしました。

十月頃にはお米がたくさん実り、「稲刈り」→「稲を干す」→「脱穀」→「初すり」→「精米」として手作業で行いました。今のように便利な機械が無い時は、このような地道な作業を繰り返していたかと思うと気が遠くなります。そして、穫れたお米をおにぎりにして食べました。子ども達の手の中に収まってしまうほどの小さなおにぎりにぎりましたが、甘くて美味しい！と言いながら食べていました。

次は、バケツではなく田んぼでお米が実る様子を見せてあげたいと思ひ、今年畑を改良し小さな田んぼにしました。現在青々と稲が生長しているところです。

(保育士 土谷 賢吾)



### 2021年度 職員構成

(9月7日現在 39名)

園長 藤井 由理

本園	
事務長	大浦有平
主任	中岡 千晶
副主任	中村 千里
給食主任	小椋 由香利
もも2	中村 千里(※)・岩本 海奈 増丸 伴美・片淵 豊美
うめ	津留崎 愛夢・大賀 桃花 岡崎 久美子
すみれ	稲田 有希・村上 沙希
れんげ	土谷 賢吾・宿利 晴子
つくし	山本 紗代・永末 映里
フリー	日野 純子・馬場 小純 神谷 晴子・片岡 真理子 成清 千尋
給食員	小椋 由香利(※)・桐島 知子 脇谷 浩美・則本 由美子 徳永 まゆみ・石川 藤子 松田 知視
事務員	山口 和加奈
保育補助	堀田 登代美・八尋 雅世
用務員	内野 和喜・長野 よし子
分園	
もも1・2	小南 早襟・北村 知子
うめ	阿部 麻央
フリー	佐藤 明美・北村 祥子 山口 三紀子

(※)は再掲

### 2021年度 父母の会役員

会長 小川 康明(うめ)

副会長	山本 久嗣 (つくし)	占部 大貴 (つくし)	
会計	只松 美德 (すみれ)		
監事	文野 慎子 (すみれ)	田中 綾子 (つくし)	
委員	稲田 鮎美 (もも2)	大村 彩 (うめ)	
	高橋 美咲 (すみれ)	森川 俊亮 (すみれ)	
	阿部 浩之 (つくし)	山口 友美 (つくし)	
	永留 恵子 (つくし)	大山 尚美 (れんげ)	
	重永 祐里 (れんげ)	日當瀬 早世 (れんげ)	
	顧問	大沼 悟	